

個別事業(取組)評価				
事業No,	52	施策の柱への位置付け	柱① 特別支援教育の推進	
事業名称	特別支援教育総合推進事業		担当課	特別支援教育課
			当初予算額(千円)	5,589
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	4,949

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	【現状】 個別の指導計画の作成率は各校種共に年々高くなっているが、発達障害等のある児童生徒の指導や支援の充実を図る指標として重要な計画であることから、十分と言える作成率ではない。 ※ 特別支援教育体制整備状況調査 H21年度 小学校 44.3% 中学校 21.9% 高等学校 22.5% H22年度 小学校 57.3% 中学校 35.3% 高等学校 30.8%	ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 文部科学省が実施する悉皆調査により毎年度把握している。
		【要因】 ◆ 個別の指導計画を作成し、有効に活用することは、適切な指導や必要な支援に結び付くことであるという認識が弱い。 ◆ 小中学校における特別支援教育学校コーディネーターは、毎年3割程度が新任者であり、個別の指導計画の作成や各学校での特別支援教育を推進していくうえでの取組の継続性に課題がある。	イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 教育事務所が、特別支援教育学校コーディネーターの経験年数等を把握している。
②	目標(Outcome)	◆ 巡回相談員派遣事業や教育事務所の学校訪問、特別支援教育学校コーディネーター協議会等の場で、その必要性を説明し、個別の指導計画の作成率を向上させる。 【目標数値】 小学校 67.3% 中学校 45.3% 高等学校 40.8%	ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 平成21、22年度の調査における個別の指導計画の作成状況の伸び率を基に目標値を設定した。 エ 目標は達成されたか (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/>) ◆ 個別の指導計画の作成状況(平成23年度) 【目標】 平成22年度と比べて、各校種10ポイントの向上を目指す。 小学校 63.3% (+ 6.0) 中学校 45.6% (+10.3) 【達成】 高等学校 36.6% (+ 6.0) ◆ 特別支援教育学校コーディネーター連絡協議会や巡回相談員派遣事業を通して、個別の指導計画の作成を重視した指導及び支援を行うことを関係機関と確認し、実施した。
		【検証(比較)方法】 ◆ 平成23年度 特別支援教育体制整備状況調査	
③	実施内容(Input・Output)	◆ 高知県公立小中学校特別支援教育学校コーディネーター連絡協議会(ブロック別、年間1回、新任者悉皆) ◆ 高知県高等学校特別支援教育学校コーディネーター連絡協議会(ブロック別、年間1回)特別支援教育課、高等学校課、心の教育センターの3課で実施 ◆ 巡回相談員派遣事業(年間Ⅲ期に分け要請に応じて実施) ◆ 高等学校における発達障害への支援(文部科学省モデル指定)	オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 高知県公立小中学校新任特別支援教育学校コーディネーター連絡協議会【5月】(東部 小:14名 中:8名 中部 小:20名 中:11名 西部 小:11名 中:7名 計 71名) ◆ 高知県公立高等学校特別支援教育学校コーディネーター連絡協議会【5月】(東部 16名 中部 25名 西部 19名 計 60名) ◆ 巡回相談員派遣事業(のべ学校数140校、のべ対象者数318名)(幼保:40園・92名、小:55校・144名、中:33校・58名、高:12校・24名) ◆ 高等学校における発達障害への支援(文部科学省委託事業)2年間の研究成果の発表会の実施(平成24年1月20日)
			【今後の方向】 ◆ 巡回相談員派遣事業で個別の指導計画の様式を活用することで、作成率の向上がみられた。今後は、教育事務所ごとに管内学校における個別の指導計画の作成状況の分析、目標値の設定など、計画的に作成率の向上を図るとともに、作成できていない学校に対しては、様式を提示するなど、作成のための支援を行う。 ◆ 高等学校については、特別支援教育学校コーディネーター連絡協議会の中で、生徒の見方や指導支援の在り方を個別の指導計画に落とし込む演習を実施する。併せて、高等学校における巡回相談員派遣事業の活用を推進する。
総合評価と今後の方向		目標達成度 C 「No」を選択した項目 エ 【総合評価】 ◆ 個別の指導計画の作成について、中学校では10ポイント以上の作成率の向上の目標を達成することができた。小学校と高等学校については、目標値に及ばなかったが、それぞれ個別の指導計画を作成している学校の割合は高くなっている。 ◆ 巡回相談員派遣事業の活用や各教育事務所において、個別の指導計画の作成を重点目標に掲げ、学校を支援していることが、作成状況の向上につながっている。	